

に い だ じょう あと 新田城跡

現地説明会資料

平成30年8月11日(土) 午前10時～
戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

戸市埋蔵文化財センター是川縄文館では、今年から3年間の計画で新田城跡の発掘調査をおこないます。今回は、お城の中心部分である本丸(主曲輪)約15,000㎡のうち約5,000㎡を対象に調査をしました。発掘調査からわかったお城のようすをご紹介します。

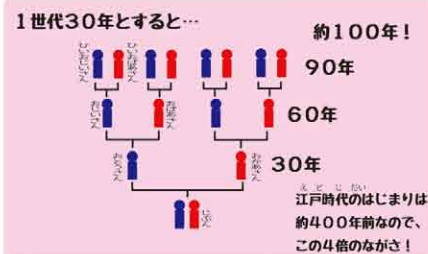
1. 新田城跡ってどんな遺跡？

新井田川と松館川が合流する地点の右側は、標高6m～37mの段丘になっています。その中で最も高く平らなところに新田城跡(館平遺跡)があります。新田城跡は、東西約200m、南北約150mの広さがあり、根城南部氏の一族である新田氏のお城の跡と伝えられています。

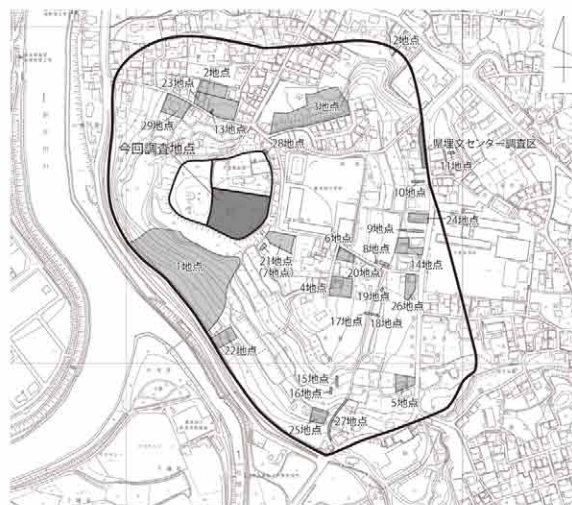
お城がつけられた時期は、遅くとも明徳4(1393)年以降と推測されていますが、正確な時期はわかっていません。天正20(1592)年に、根城とともに壊され城としての機能を失ったとされています。寛永4(1627)年には、根城南部氏が遠野へ国替えとなったときに、新田氏も遠野へ移り、新田城は廃城になったと考えられています。

また、明和3年(1766)には、当時の戸藩主が隠居後の病氣保養のための建物を建てて移り住み、これを「新井田御殿」と呼んだという記事が文献に残っています。

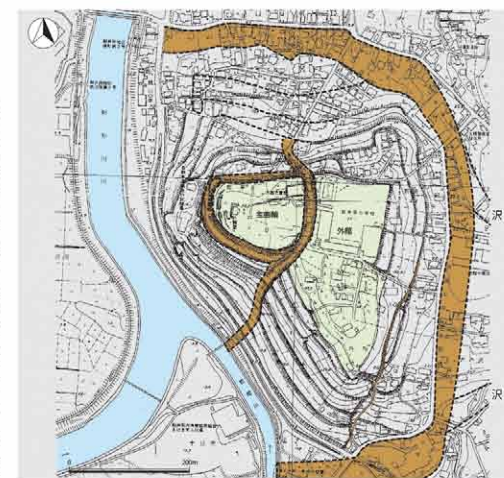
100年ってどれくらい前なんだろう…



私たちの代で遠野に移ることになりました。



これまでに調査をおこなった場所(今回の場所で30か所目)



新田城の推定範囲 『新編戸市史 考古資料編』より抜粋

2. 発掘調査でみつかったもの

今回の調査では、主に中世から近世と考えられる掘立柱建物・倉庫・井戸・土坑・鍛冶遺構・溝・土塁、縄文時代の竪穴建物跡などの遺構がみつかっています。また、土地を平らに整えたり、堀の角度を急にしてお城の守りを強くするための整地がされていることがわかりました。

今回の調査は、保存を前提とした遺跡の内容を確認するための調査なので、遺構がみつかったとしても掘り下げるのは最小限にとどめました。そのため、各遺構の詳細な時期を知るには限界があります。しかし、遺構の形とそのあり方や、少量ながらも、縄文土器や中世から近世の陶磁器、銭貨などの遺物がみつかり、この時期に人々が活動していたことがわかりました。

3. まとめ

新田城跡は今まで本丸の発掘調査は行われたことがなく、お城の様子はよくわかっていませんでした。今回の調査で、様々な遺構がみつかり、少しずつお城の姿がみえてきました。今年度の調査から得られた情報を詳細に検討し、来年度以降の調査につなげていきたいと考えています。

約1万2000年前

約2500年前

約1700年前

約1400年前 約1300年前 約1200年前

約800年前 約660年前

約430年前 約400年前

縄文時代

弥生時代

古墳時代

飛鳥時代 奈良時代

平安時代

鎌倉時代

室町時代

安土桃山時代

江戸時代

遺構配置図

(みつかった建物跡などの位置を示した図です。)

はしら あな
柱の穴がたくさん！



鍛冶遺構

中世～近世

ほったてばしらたてものあと
掘立柱建物跡 3棟以上

そうこあと
倉庫跡 2棟以上

いどあと
井戸跡 1基

どこう
土坑 2基

かじいこう
鍛冶遺構 1基

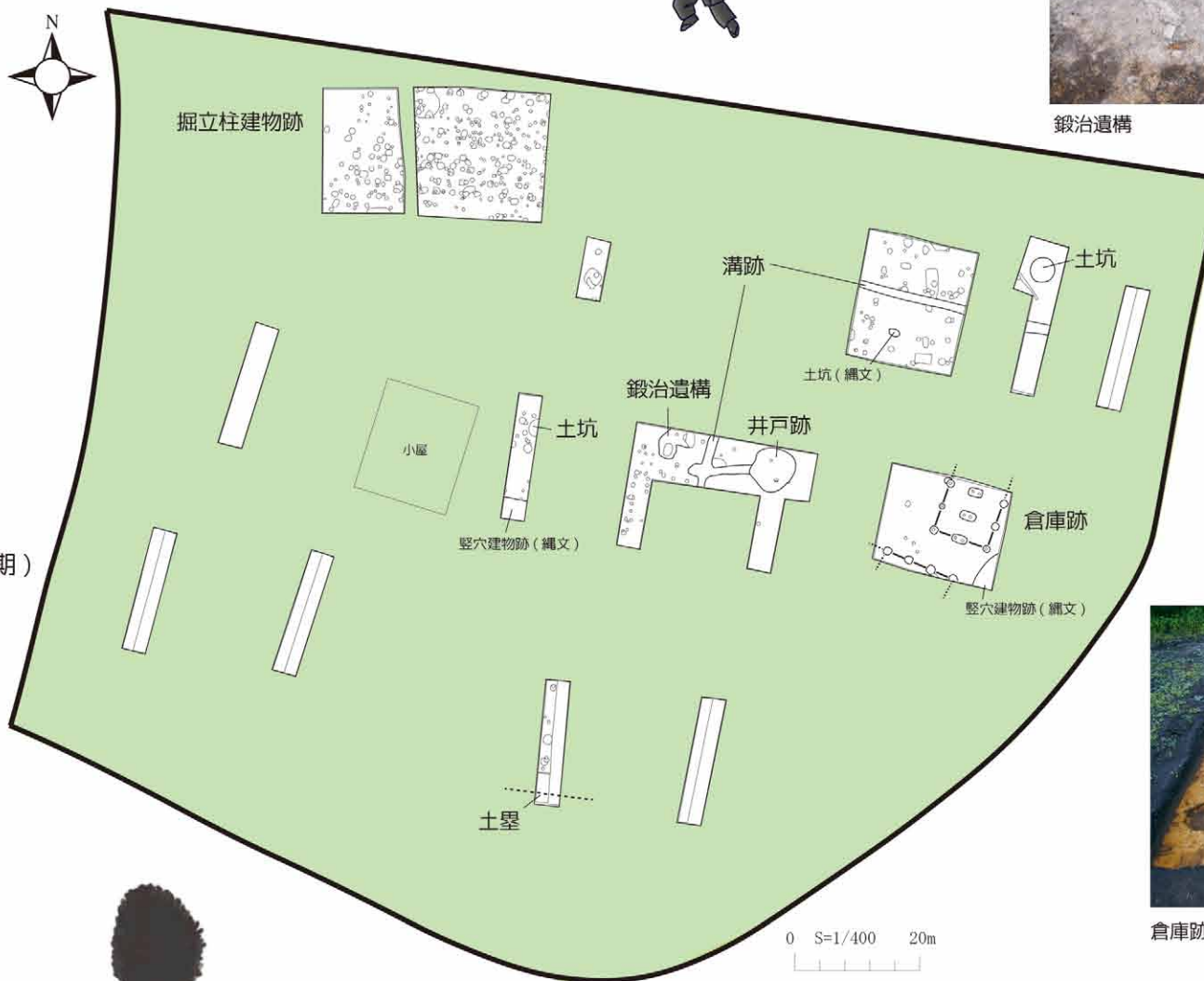
みぞあと
溝跡 1条

どるい
土塁 1基

縄文時代

たてあなたてものあと
竪穴建物跡 2基(縄文時代早期)

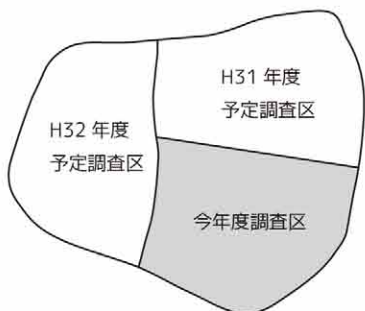
どこう
土坑 1基



井戸跡



倉庫跡



H31 年度
予定調査区

H32 年度
予定調査区

今年度調査区



どるい
土塁をつくるために
土を積み上げている
ようすがわかるよ

お城のなかの様子が
少しずつわかってきたよ

